

災害ボランティア・NPO協働推進ニュース

発行：東京ボランティア・市民活動センター(TVAC) / 災害協働サポート東京(CS-Tokyo)

【問合せ】TVAC災害協働推進担当 03-3235-1171 saigai@tvac.or.jp

Vol.06 発行日：2026年8月14日(金)

TOPICS :

- 1 令和8年度 東京都・江戸川区 合同総合防災訓練
- 2 能登半島地震 避難者交流会を開催

令和8年度 東京都・江戸川区 合同総合防災訓練に 城東ブロック VC・NPO のプロジェクトチームで参加

7月5日(日)、東京都災害 VC アクションプランの一環として「東京都・江戸川区 合同総合防災訓練」の展示・体験訓練に参加しました。

本訓練への参画にあたっては、城東ブロック(墨田・江東・江戸川・足立・葛飾)の社協・ボランティアセンターに加え、アクションプランに参加する有志の NPO・NGO 団体とともにプロジェクトチームを結成し、下記の3点を目的に企画・運営にあたりました。

- (1)本企画をともに進める中で、各団体としての強みや課題等をメンバー間で共有しあい、発災時には円滑な連携が図れるよう、顔の見える関係性をつくっていく。
- (2)訓練当日は、災害時要配慮者(高齢者や障がい者、子ども、外国人など)も含めた、多様な方々に参加いただき、訓練を通じて、お互いに様々な気づきを得てもらう機会とする。
- (3)「防災まちあるき」プログラムの実施手順・ポイントを全体で共有し、そのノウハウを伝えることで、各地域・団体でも展開できるようにする。

◆東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議としての参画プログラム

(1)パネル展示(会場：平井運動公園)

主には、災害ボランティアの紹介(災害ボランティアとは／東日本大震災や令和7年台風22号・23号による八丈島でのボランティア等の様子)、本企画参加団体の活動紹介、今回の防災まち歩き企画の紹介を行いました。また、参加者の方が、自分事として発災時の課題について考えるきっかけとして「クロスロード(自分が事例の登場人物となって、答えのない2者択一から何れかを選択する)」というワークが体験できるコーナーも用意し、最終的には120名を超える参加者の方がブースを訪れました。

ブース内での解説や案内を担当したスタッフからは「災害ボランティアに関心のある方は多かったが、実際に被災地でのボランティア活動につなげることの難しさをあらためて感じた。もう少し、災害ボランティアの活動内容は多岐にわたること、幅広い方に参加いただけることを伝えられるとよいと思った」「クロスロードを通じて、災害時の状況を、現実的に自分ごととして、イメージしてもらえきっかけになったと思う。幅広い年齢層の方に参加し



てもらえた」といった感想がありました。

(2)防災まち歩き(コース:平井諏訪神社～平井運動公園)

92名の参加者が、全3コースに分かれて1時間～1時間30分程度の防災まち歩きを実施しました。参加者4～5名が1グループとなり、スタッフが各グループにファシリテーター・サポーターとして入る形です。ファシリテーターは、コースの途中で見学先に関するクイズや解説を行い、参加者が防災や要配慮者に関わる多様な発見・気づきを得られるよう促していきます。猛暑での開催となることを見越し、参加者及びスタッフに熱中症対策グッズを配布しましたが、当日の最高気温は27度、小雨が降る時間帯も数分ありましたが、大きなトラブルもなく無事に終了しました。

参加者は、地元の民生児童委員、町会・自治会の方を中心に、江戸川区の行政職員や福祉施設の職員、障がいのある方(聴覚障がい・視覚障がい・身体障がい)など、多様な方にご参加いただくことができました。参加者からは「コースの地理・歴史に詳しい、地元の参加者の方がいてくれたので、防災という視点だけではなく、地域自体を知れたのが面白かった」「防災に視点をあわせて、同じ班の人と話しあいながら歩け、新たな気づきがあった」「スロープはいざ災害時に車いすの方が1人で登れるのか、、、助けあいが必要と感じた」「小・中学生の方も参加できるといいですね。親子の参加も増えるといいですね」「地域の町会などでも、まちあるきをして自分の地域の設備を知る必要があると感じた。町会などの小さな単位で実施してほしい」といったお声がありました。

また、担当スタッフからは「防災・減災につながるヒントを提供することも大切だが、まち歩きのテーマに応じたアプローチができると、なおよかった。今回でいえば、災害時要配慮者の方と一緒に歩く中で、その方たちの視点で考えてもらえるような工夫をしたかった」「グループメンバーとして参加した行政職員の方が、その立場で自分たちの取組みについて、分かりやすく説明いただいたことがよかった」「是非、次回は子どもと一緒に参加できる防災まち歩きをという声もいただいたので、これで終わりとせず、次につながる企画にできればと思う」といった振返りがありました。



<令和8年度 東京都・江戸川区 合同総合防災訓練>

- ・主催:東京都／江戸川区 ※毎年度、開催地区となる区市町村を代えて実施
- ・目的:(1)行政及び各防災機関の実践的な訓練による災害対応能力の向上
(2)都民の訓練参加を通じた防災意識の向上
- ・日時:2026年7月3・4・5日
- ・訓練内容:災害対策本部の審議訓練、緊急支援物資輸送訓練、避難訓練、救出救助訓練、展示・体験訓練、医療救護活動訓練など多岐にわたる

能登半島地震 避難者交流会を開催

8月4日(火)、令和6年能登半島地震で東京に避難されている方を対象に交流会を開催しました(主催 TVAC、協力 CS-Tokyo)。交流会には、七尾からの避難者1名、輪島市門前から2名(夫妻)、穴水町から1名の計4名の方がご参加くださいました。また、石川県庁、石川県社協、葛飾区社協(葛飾在住の避難者がいるため)の方々にも来ていただきました。

当日は、都庁の1階に集合し、南展望台にのぼった後、32階の職員食堂でコーヒー等を飲みながら交流会を行いました。今回は東日本大震災の避難者にも1名(福島県浪江町から避難)参加いただき、災害を超えた交流・情報交換も行われました。



【参加者(避難者)の声】

- ・なかなか東京での生活は慣れない。妻の足が悪いので、頻繁に遠くに行くことはできないが、毎日、朝、家の周辺を散歩している。
- ・熊本地震も起きて支援が必要な中、能登の避難者を対象とした場を開催してくれて、申し訳ない。感謝したい。
- ・支援されるばかりでなく、何かできることがあれば積極的に参加していきたい。
- ・能登の家は公費解体をしたので、戻りたい気持ちはあるが、なかなか難しい。

能登半島地震における東京への避難者は、発災直後は都営住宅に40世帯ほどが入居していましたが、現在は都営住宅の提供も終了し、親戚・知人宅の方も含め、何人の方が東京で暮らされているのか全体像が把握できていません。当センターでは、CS-Tokyo や都内の区市町村社協、ボランティア・市民活動センター、石川県、石川県社協と連携し、引き続き、能登半島地震の避難者への支援を続けていきます。

